

コロサイの信徒への手紙

コロサイの信徒への手紙は、キリストの十分さと宇宙的な至高性を示し、その中心を置き換えかねない実践や力から共同体を守ろうとします。



解釈にもとづく再構成。正確な出発の場面は再構成です。手紙一通だけ描くことで、フィレモンへの手紙も同じ便で運ばれたと主張してはいません。

年代・確度：推定される

紀元60～62年頃

ブラウンによるローマの年代幅は紀元61～63年です。エフェソとカイサリアも収監地の候補であり、パウロ本人による著作かどうかも議論されています。

場所・確度：推定される

伝統的にはローマ（背景と著者に議論あり）

ブラウンによるローマの年代幅は紀元61～63年です。エフェソとカイサリアも収監地の候補であり、パウロ本人による著作かどうかも議論されています。

前後の出来事

- ① 紀元59/60年頃 嵐と難船。276人全員が助かり、パウロは蛇にかまれるが無事で、マルタ島で癒やしを行う。
マルタ・本文で確かめられる
- ② 紀元60年頃 マルタ島からイタリアへ渡り、さらにアッピア街道でローマへ。兄弟たちがパウロを迎える。
マルタ→シラクサ→レギオン→プテオリ→アピイフォルム→トレス・タベルネ→ローマ・本文で確かめられる
- ③ 紀元60～62年頃 使徒言行録は、パウロがローマで自宅軟禁下に置かれたまま、妨げられることなく宣教する場面で終わる。この時期に獄中書簡を置く伝統的な見方は再構成であり、使徒言行録自身の主張ではない。
ローマ・本文で確かめられる
- ④ 紀元60～62年頃 フィレモンへの手紙は、書き手がオネシモをフィレモンのもとへ送り返そうとしていると述べる。コロサイの信徒への手紙との共通する人名は両書の関連を示唆するが、同じ発送、完了した旅程、監禁都市を確定しない。
・推定される
- ⑤ 紀元60～62年頃 エフェソの信徒への手紙は、キリストとの結びつきと、ユダヤ人と異邦人の一致を示す。パウロによる直接の著作、宛先、監禁場所はいずれも議論されている。
・推定される
- ⑥ 紀元60～62年頃 フィリピの信徒への手紙は、投獄が福音の前進につながったことを描き、キリストをたたえる賛歌を含む。監禁都市は議論されている。
・推定される

本文から確かめられること

本文で確かめられる

コロサイの信徒への手紙は、キリストの十分さと宇宙的な至高性を示し、その中心を置き換えかねない実践や力から共同体を守ろうとします。

受取人はエパfrasを通して知られ、信徒の共同体として呼びかけられるコロサイの教会です。

主な再構成

ここに示す伝統的な拘禁書簡の年表はローマ、西暦60～62年ごろであり、フィレモンへの手紙、ティキコ、オネシモが現れる結びのつながりと結びつけられることが多いです。

ブラウンによるローマの年代幅は紀元61～63年です。エフェソとカイサリアも収監地の候補であり、パウロ本人による著作かどうかも議論されています。

考える別の読み方

コロサイの信徒への手紙を、パウロの思想と人のつながりを受け継いだ近い協力者の作とする研究者もいます。

パウロ自身による手紙かどうかにかかわらず、拘束の場をローマではなくエフェソまたはカイサリアに置くこともできます。

10分で紹介するための流れ

1. コロサイの信徒への手紙は、キリストの十分さと宇宙的な至高性を示し、その中心を置き換えかねない実践や力から共同体を守ろうとします。
2. 伝統的な順序は、コロサイの信徒への手紙をローマでの拘禁の近くでフィレモンへの手紙とまとめ、牧会書簡に用いられる使徒言行録後の再構成より前に置きます。
3. ここに示す伝統的な拘禁書簡の年表はローマ、西暦60～62年ごろであり、フィレモンへの手紙、ティキコ、オネシモが現れる結びのつながりと結びつけられることが多いです。
4. コロサイの信徒への手紙を、パウロの思想と人のつながりを受け継いだ近い協力者の作とする研究者もいます。

一次資料

ローマの信徒への手紙からフィレモンへの手紙まで、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

使徒言行録7～28章、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

資料

Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997). — 第27章「コロサイの信徒への手紙」：「メッセージの全体的分析」

この箇所は、関連する研究上の見解を概観します。

Jerome Murphy-O'Connor, Paul: A Critical Life (Oxford University Press, 1996). — 第1章「年代枠組み」：「パウロ書簡からの証拠」と「使徒言行録からの証拠」

この箇所は、ここでの結論を慎重に評価するための研究上の論点を示します。

聖書本文は含めず、参照箇所のみを記載しています。

<https://paulineletters.com/ja/explore/colossians>

改訂 v1.2.0-evidence.20260902.4 · CC BY 4.0 · PaulineLetters.com

